

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100017		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム秋桜	ユニット名	1番地・2番地
所在地	長崎県長崎市滑石6丁目4番3号		
自己評価作成日	平成26年12月5日	評価結果市町村受理日	平成27年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成26年12月9日	評価確定日	平成26年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは地域密着型サービスに位置づけられているため、地域との連携に力を入れています。地域の方々との交流が多く、地域行事へご招待頂いたり、地域の小学生との交流会を行ったりと積極的に交流を行い、連携を図っております。また運営推進会議においては地域の民生委員や自治会長等にもご参加頂き日々の活動報告や情報交換等を行い、地域とのネットワークを広げることができています。季節に応じて外出活動(お花見外出、大村菰蒲園外出、ランタンフェスティバル外出等)を行ったり、陶芸や小物作りなどに組み入りだりと利用者が楽しく安心して過ごせるような働きかけを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人平成会は、常に「地域住民の方々が地域の中で過ごせる事」を念頭に置き、配食サービスを始めて様々な取り組みを続けてこられた。地域のお祭りには企画から参加し、施設行事にも地域の方を招待し、子ども達からボランティアの方まで楽しみにして下さっている。グループホーム秋桜の入居者も地域行事に参加しており、施設に来られる子ども達との交流を楽しまれている。「秋桜」では、26年10月に人事異動が行われたが、職員全員で結束し、日々のケアを続けてこられた。管理者とリーダーを中心に現状の再確認が行われ、今後の取り組み目標の検討も行われた。職員の意見やアイデアを引き出し、日々のケアに反映できる事を大切にされており、職員個々の能力や特技も発揮できるようにしている。職員の人員体制が限られている中、今後も“ご本人のできそうな事”を丁寧に把握すると共に、両ユニットで協力しながらレクや体操などを行い、買物などの楽しみも増やしていきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に職員で理念を復唱している。施設の行事にもご参加頂き連携が図れている。地域の子供たちとの交流会や地域行事への参加を積極的に行ない交流が図れている。	「ゆったり楽しくありのままに」という理念と共に、毎年の目標も掲げ、振り返りをしている。26年10月の人事異動に伴い、新たなチームワーク作りが行われ、職員個々の能力を発揮し、日々のケアに取り組まれている。今後も両ユニットで協力し、“楽しい時間”を増やしていく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、小学生との交流学習を通して地域に貢献することが出来るよう、交流している。	開設以来、地域との交流を積極的に続けてこられ、施設のお祭りには地域のボランティアの方が来て下さる。4階のデイでも園児がお遊戯をして下さり、滑石保育園のお遊戯会や運動会にも参加している。25年度に始まった「施設介護ボランティア」の方も来て下さり、食器洗い等をして下さっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流を通して理解が深まっている。また認知症サポーターリーダー養成講座を受け入れる等取り組みをおこなっている。また平成会アカデミーでヘルパー育成を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動内容は表と写真にて報告している。会議をきっかけに地域との交流の橋渡しをして頂くこともあり、地域との連携が図れている。	会議には家族、地域の方、市の方等に参加頂いている。日々の活動状況を写真で説明し、意見やアイデアを頂いている。参加者の方が一番気になるのが防災であり、避難訓練の報告をした時も、「消防署と合同訓練を見てみたい」という意見を頂き、見学をして頂く事ができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導時に、施設内を見て頂き、運営状況についてもご指導頂いた。運営推進会議にご出席頂き、ご意見やアドバイス等を頂いている。介護保険等について不明な点があった際に電話にて尋ねている。	法人として市の介護予防事業を受託しており、担当者と連絡を取り合っている。実地指導では介護保険法令の解釈等を詳しく教えて頂き、運営推進会議の際にもアドバイスを頂いている。毎年、介護相談員や認知症サポートリーダー養成講座の施設見学の受け入れもしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯は職員が一人見守りであることから防犯のためにユニットの入口を施錠している。それ以外は開錠し身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。事業所内で委員会を立ち上げ定期的に勉強会を行なっている。	同じ内容の勉強会を2回ずつ開催し、全職員が参加できるようにしている。転倒が予測される方には、ベッド臥床時の転倒防止の話合いが行われ、予測されるリスクを家族に説明している。入居者間の関係性にも配慮し、トラブルを未然に防ぐための検討も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束の委員会と共に高齢者虐待についても法人内で委員会を立ち上げ、勉強会を行なっている。事例検討や講義などを通して職員が学ぶ機会を設けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の勉強会等に参加し、知識を得ている。介護スタッフに伝達する機会がなかなか無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ご家族へ重要事項説明書と契約書を分かりやすい表現で説明し同意を得ている。ご家族が不安や疑問がないように一つ一つ確認しながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会ではご意見やご要望を頂いた。玄関前にご意見箱を設置している。ご家族からのご意見を大事にして全職員へ伝達し、早急に対応するように努めている。	家族の方に協力して頂き、陶芸や粘土で小物作りなども取り組まれた。面会時などに、「もっと歩かせて下さい」「できる事はさせて下さい」と言う要望も聞かれ、地域の外出活動に参加したり、楽しみながら歩けるように工夫が行われた。家族懇談会では家族同士の交流の場になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の関わりの中で職員からの意見や要望等を聞き対応している。ユニット会議や個人面談時にも職員の意見を聞いている。今後も職員が意見を言いやすい雰囲気作りをしていきたい。	職員同士の団結力は強くなっている。会議や面談時に職員と意見交換しており、職員からの意見は多い。人員体制などの要望は法人全体で検討しており、職員の募集を継続し、他部署からの応援体制もある。清掃業務等を行う用務員を配置し、職員が介護に専念できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、人事考課を行っている。ユニット会議にも参加され職員の意見や要望を汲み取って頂いている。研修会など勉強や学びの機会が最近無いので、呼びかけをしていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は経験の有無に関わらず、法人での研修に参加し基本的な接遇マナーや介護技術を指導してもらう。その後配属となるが、3ヶ月間は研修期間として指導を受ける。国家資格の取得においても助成や協力体制がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム連絡協議会の全体研修会や地区会において、他のグループホームとの勉強会や研修会などを行い交流が出来ている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	周りの職員にも対応の仕方を聞き工夫しながら意見を出し合い実践している。常に利用者の立場に立った介護を心がけている。入居者の声に耳を傾けながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に本人からお話をたくさん伺い、状態把握に努めている。その際ご家族にもご意見やご要望等を伺っている。また入居後も入居者に昔の生活や考えなどをお聞きし、ケアに生かす工夫をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にあセスメントを取り情報収集をしっかりと行って現状把握を行っている。ご本人やご家族の思いや要望を伺いながらニーズを汲み取り、ケアプランに活かしケアの統一を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者ができること(食器洗い、洗濯物たたみ、テーブル拭き等)は可能な限りお願いしている。必要に応じて職員が対応しているが、自立支援を念頭に置いて取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には日々の様子や状態等はこまめに報告している。遠方の方は電話や手紙、メール等にて連絡を取り合っている。ご家族との絆を大切にしながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前入居者が住んでいた家の近所の方が演奏会に来訪されたり、住みなれた地域の行事へ行かれたりと昔からの繋がりを継続した支援ができています。	家族や知人などが面会に来て下さり、ギター等の演奏をして下さる方もおられる。家族とお墓参りや教会に行かれたり、牧師の方がホームに来て下さっている。「おくちに行きたい」という希望も聞かれ、叶えるように努めている。今後も、家族の方々との交流を増やしていく予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格や個性があるため、職員が仲介役となって対応し関係性が悪化しないように工夫している。お一人お一人の個性を大事にしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療的な対応が常時必要な場合は、医療機関へつなげると共に、身体機能の低下によりグループホームで対応が難しくなった方においては、同法人内でスムーズな移行ができるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のお話をじっくり伺い、また表情や様子、口調などを観察して状態把握に努めている。些細なことでも気になることはご家族へお伝えして一緒に考えるよう努めている。	入浴の時間や団欒の時を含め、洗濯物量みの時も職員と入居者と和を作り、お話をしている。「○が食べたい」「自宅へ行きたい」等の要望を伝えて下さっている。意思疎通が難しい方は入浴時に一緒に歌を唄い、言葉を引き出しており、職員から声かけし、思いを聞くように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントでは昔の生活習慣や好みなどを本人にお聞きしたり、ご家族に伺う等して把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人のペースや習慣、好みなどを把握し、排泄や食事量についても観察し記録に残している。些細なことも職員間で申し送りを行なって情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議を開催し、ご家族の意見や施設内での様子を話し合い、ケアプランに反映している。介護スタッフはケア内容の把握と統一に努めている	ご本人の意向の把握と共に、家族から「楽しく過ごして欲しい」「長くホームで生活できるよう、できることは本人にさせて欲しい」等の要望も頂いている。計画には歩行訓練、食事形態、家族の受診などと共に、習字や計算ドリル、大好きなカラオケ等も盛り込まれている。	今後もケース会議の機会に、家族とケアプランの話し合いを続ける予定である。行動障害等の理由を分析し、解決策も含めて記録に残すと共に、自立支援の視点で、日々の家事活動を含めて、「できそうな事」の把握を行う予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者が発した言葉や健康状態などを記録し、情報の共有に努めている。ケース記録や業務日誌などに細かくその日の入居者の様子や状態などを記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能福祉施設の特色を活かし、デイサービスに慰問が来た際には見学に行ったり、文化祭では事業所別対抗演芸大会も行い楽しんだ。ご家族ボランティアにご協力頂き、陶芸や粘土で小物作りなども取り組んだ。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用することが少ない状況であるため、今後活用しながら入居者が安全で豊かな生活ができるように工夫していきたい。施設介護ボランティアの受け入れを積極的に行い、活動の幅を広げていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	信頼するかかりつけ医を継続して利用できるようにしている。定期的外来受診はご家族にお願いしている為、受診前後の連絡や報告等は細かく行っている。施設で受診を受けた場合は、結果をご家族へ電話や手紙にてお伝えし、利用者が安心して医療を受けられるように配慮している。	往診を受けている方が多く、家族との受診結果の共有もできている。症状に応じて、専門医の受診等の提案もさせて頂いている。月2回、歯科衛生士の訪問があり、口腔ケアにも取り組まれ、口腔体操などのアドバイスを頂いている。理学療法士やデイの看護師への相談もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師がいないため、緊急時などは主治医へ直接連絡を取り、指示を仰いでいる。他の部署に看護師が出勤している場合は、助言をもらうこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設での生活状況や健康状態などを細かく病院側へお伝えし、情報の共有に努めている。退院時には看護・リハサマリーを頂き、情報をもとに支援を行う。入院してもご家族や病院側と連絡を取り合い、状況把握と早期退院につながるよう働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が見込まれる場合は早い段階で他の施設や医療機関への申し込みをお願いしている。ご家族へ事業所で「できること」「できないこと」を説明し方針を共有できている。可能な限り入居者が永く施設で生活できるように健康管理や状態把握に努めている。	看護職員の配置がなく、現在は終末期の対応は難しい状況にあり、重度化した場合は他施設等の入所申し込みが行われている。主治医と連携して、医療的な処置が常時必要となる事が予想される時は家族と話し合い、入院された方もおられる。職員の観察力も高く、小さな変化にも気づき、早期発見に繋げている。	「最期までここで」と要望される方も増えている。今後も法人全体で重度化・終末期の方針を検討予定であり、医療連携の在り方と共に、ベッドや入浴環境、職員への死生観教育、適切な対応ができる職員配置を満たす事ができるかどうかなどを検討していきたいと考えている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のためにマニュアルを作成し、AEDも設置している。消防避難訓練も定期的に行っており、職員も意識を高く持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災に対する消防避難訓練は、定期的に日勤帯・夜間帯想定にて訓練を実施している。また、昨年より毎月訓練することとなり、消防設備・避難・通報・消火等、細かい動作や内容の習得に向け働きかけている。自然災害については、備蓄はそろえたものの訓練を今回初めて行った為、継続して訓練して意識を高めていきたい。	毎月の訓練が行われ、消防署(年1回)と一緒に昼夜想定訓練を全館で行っている。ハシゴ車も持ってきて下さり、実際に想定した訓練も行われた。廊下を挟んで左右に各ユニットがあり、火災等の発生場所に応じての避難訓練が行われている。近隣マンションの掲示板に避難訓練をお知らせし、地域の方への協力依頼をしており、施設の4階に食料やおむつ等を保管し、福祉避難場所にも登録している。	26年9月に土砂災害の訓練が行われ、今後は地震の時の訓練なども検討していく予定である。ハザードマップも確認されており、地域の歴史(滑石の地名)を再確認し、今後も事業所単位の防災計画(自然災害等への対策)やマニュアル等を作成していく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の思いを大切に職員本位にならないように入居者に合わせた声掛け、対応を心がけている。特に排泄時や入浴時は配慮している。	入居者と話す時は目線を合わせ、優しい声かけをしている。入浴や排泄時も羞恥心に配慮し、居室に入る時はノックをする等、プライバシーの保護に努めている。個人情報保護についても職員に定期的に声かけし、書類等は持ち出し禁止にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が思いや気持ちを表出しやすい雰囲気作り・声掛けを心がけている。表出が難しい方はご家族からも情報を得ながら、表情や様子を観察して関わっている。家人への連絡や買い物の意向がある時は実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間などは可能な限り、入居者の希望やペースに合わせて対応している。熱めのお湯が好きな方、ゆっくり浸かるのが好きな方、個々に合わせて取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や祭りなどの行事の際は、お化粧品をして参加して頂いている。また外出時は、お気に入りの洋服に着替えたり、おしゃれして外出できるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや下膳の手伝いをしてもらったり、味見をお願いする等、食事の準備・片付けを手伝ってもらっている。調子が悪い時や、やる気が無い時は無理強いしていない。	職員配置上の理由から、主菜と副菜は厨房から提供して頂いている。ご飯や味噌汁、おかずの1品は手作りしている。おはぎ作りも入居者と生まれ、職員が持参した“土の付いた野菜”等を入居者に見てもらい、会話を膨らませている。今後も入居者の“できそうな事”を探していく予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重を測って増減をチェックしている。水分補給もこまめにチェックして紅茶やコーヒー、バナナジュースなど工夫しながら提供している。水分・食事が減って、働きかけても摂取できない場合は主治医へ報告し点滴等処置してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2週間に1回、歯科衛生士の往診があり、口腔ケアに取り組んでいる。また口腔体操などのアドバイスを頂いている。毎食後に個々に応じて口腔ケアを行い清潔に保つよう努めている。週に1度の音楽療法で嚙下体操も行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導が必要な方には排泄パターンを詳しくチェックしてできるだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。入居者が不快にならないようにさりげなく対応を行っている。	布パンツで過ごされている方もおられる。食事前にトイレ誘導したり、ご本人の表情や行動を見ながらトイレ誘導をしている。失敗された方は、さりげなくトイレに移動して頂き、後始末の支援が行われている。今後もトイレに間に合うように、声かけのタイミングを検討していく予定である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分をこまめに提供したり、軽い体操をして身体を動かして頂く等働きかけている。また主治医と相談しながら、下剤の調整を行ったり、腹部のマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の配置上、希望の時間帯や日にちがずれることがあるが、1週間に2回は入れるように対応している。入浴は個々の状態やペースに合わせてゆっくり入って頂けるように努めている。	入浴好きな方もおられ、ゆっくり湯船に浸かられている。家族の事や昔の話をして下さる方もおられ、職員との団欒の時間になっている。皮膚が弱い方は綿素材のタオルを使用し、できる範囲は洗って頂いている。入浴を好まれない方には声かけを工夫し、毎日の陰部清拭も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の利用者の体調や表情、様子等を確認しながら安心して休めるように対応している。冬場は厚めの布団を着ていただいたり、暖房の調整を行なうなど気持ちよく休めるよう対応している。乾燥するため濡れタオルをかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容が書いてある表を個人のケース記録に挟み、いつでもすぐに確認できるようにしている。服薬時は、名前、日付、時間帯などを必ず読み上げて誤薬がないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ等の役割を持って頂いている。昔の経験を活かして一緒におはぎ作りや餅つきなどを行った。陶芸や粘土で小物作りなど入居者が持っている力を活かして取り組んだ。ボランティアの催し物を見学した。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的には施設周辺の散歩などを行い気分転換を図って頂くことができた。また施設内で開催されるボランティアによる催し物や地域の行事に参加するなど地域との関わりを深めながら楽しみを見つける工夫をしている。地域の行事やお招き頂いた子どもたちとの交流(保育園お遊戯会・運動会・中学校文化祭等)等の外出に参加を呼び掛けている。	天気の良い日はゴミ出しや散歩に行かされている。地域行事にも参加しており、季節に応じて大村菖蒲園やおくち、ランタンフェスティバル、小浜の足湯にもお連れしている。ユニット毎に家族の面会状況は異なるが、家族にも外出活動のお誘いを行っている。	職員の人員的な制約もあるが、今後も外出の機会(買物・美容院等)を増やしていきたいと考えている。日々の生活の中でも、両ユニット合同でのレクや体操の機会を作る事を検討するなど、今後も更に下肢筋力等の維持向上に努めていく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、お金や貴重品などはお預かりしていない。入居者の日用品や入居者が購入したいものがある際は、立て替えにて購入して頂いている。欲しいものがすぐに購入できるよう、配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から連絡があった際は、ご本人に代わりお話しして頂いている。ご本人より希望がある際も電話をかけている。手紙に関しては現在書ける方が少なく年賀状などは一言書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や植物を飾ったり、トイレや居室が分かりやすいように大きく字を書いて掲示した。テーブルの配置を定期的に変えることで、気分転換になっている。空調の調整や加湿なども目安を作り職員本位の設定にならないよう意識して管理している。	両ユニットの入り口には着物の帯が飾られ、観葉植物もあり、行事予定なども掲示している。リビングは広く、テーブルやソファ、畳があり、入居者同士が穏やかに過ごせるように座席も検討している。掃除は専門の方が行い、職員も気がけており、綺麗な空間が保たれている。今後も、日々の日課(活動状況)を家族にお知らせする予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	光が差し込む窓側にはソファを置いて外を眺めたりできるよう配慮している。リビングは気の合う入居者同士が隣に座ってくつろげるように、配席や位置など随時工夫し対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に馴染みがあるタンスやベッド、椅子などを持ち込んで頂き、使い慣れたものを使用することで安心して過ごすことが出来るよう工夫している。	居室の前に「〇〇さんのお部屋」と記載している紙を貼っている。和室と洋室があり、各居室には鏡やクローゼットを備え付けている。タンスや鏡台、ソファ等を持ち込まれ、家族の写真や仏壇を置かれている方もおられる。鏡に映る自分の姿に混乱する方は、鏡を隠す工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所を入居者が認識できるように工夫している。施設の構造がバリアフリーになっているため段差が少なく、手すりなど必要な箇所に設置しており、安全に生活できるようにしている。		